

県立高校改革（Ⅳ期）指定事業単年度報告書

令和7年度 県立高校指定校事業（令和7年度指定）実施報告書

学 校 名	大和西 高等学校（全）	校 長 名	横谷 英海
指 定 名	グローバル教育研究推進校	年 度	令和7年度
研究主題	異文化理解を深め国際社会への関心を高めるための持続可能なグローバル教育の在り方		
3年間の目標	英語教育を中心とする、外国語教育を一層充実させるとともに、他の教科や学校行事等を通じて異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って課題をとらえ自ら考え対話を通じて課題解決を図ろうとする資質・能力を育成する。		
本年度の研究内容	(1) 目標 ○グローバル教育研究推進委員会を中心に、第Ⅰ期～Ⅲ期の取組の検証を丁寧に行い、第Ⅳ期の取組についての課題や改善すべき点の整理をし、体制の充実も図る。 1) 英語検定試験、GTEC 等のデータを分析して、学校全体の取組として効果的で効率良い支援の在り方を検討する。 2) 海外修学旅行や姉妹校交流について、持続可能な取組の研究を継続する。 3) 組織的で継続的な授業改善の取組をすすめる。 4) 総合的な探究の時間の取組を推進する。 (2) 実施内容 本年度は、コロナ禍を経て停滞していた国際交流活動の再構築と発展を研究の柱とし、交流機会の回復および質的向上を目指した取り組みを行った。コロナ収束後のⅢ期も、国際交流参加者数の減少、姉妹校との関係継続、海外交流費用の高騰など多くの課題が残る中、Ⅳ期目の1年目として、コロナ以前の水準への回復にとどまらず、より充実した国際交流の在り方を探究した。 1) 外国語教育に係る取組 ・全校生徒を対象に実施した英語検定試験 GTEC 等のデータを分析して、学校全体の取組として効果的で効率良い支援の在り方を検討した。 2) 国際交流事業に係る取組 ・オーストラリア、ドイツ、韓国、アメリカ、ニュージーランドに希望者による姉妹校交流校訪問を行い、国際交流の更なる充実を図った。 ・そのうち韓国のヤンジ高等学校とは新規に交流校交流を行った。 ・韓国、オーストラリア、アメリカの交流校とオンライン等を活用した交流活動を授業、放課後で実施し、多くの生徒が参加した。 ・ドイツ、座間アメリカンハイスクール、修学旅行で訪問した台湾の生徒の訪問を受けて、交流を深めた。 ・1学年全員が1泊2日でオリンピックセンターで行う、イングリッシュキャンプに参加し、コミュニケーション能力を高めた。その様子はTVKでも放映された。 ・2学年全員が、横浜でB&Sプログラムを実施し、来日している留学生に対して神奈川県の名所旧跡を英語で紹介し案内した。 ・希望者によるサマーイングリッシュキャンプを福島県で実施し、コミュニケーション能力を高めた。 3) 授業改善の推進 ・公開研究授業や研究協議等を通して、教科横断的で組織的、継続的な授業改善の取組を継続し、基礎学力の充実を目指した。 ・その際に電子黒板や、タブレット等の ICT 機器を活用することで、主体的・対話的で深い学びを実現し、教科横断的な連携を活発化する授業方法を目指した。 ・英語教育における AI の活用について研究を行い、AI の活用が進む現代においても、「自分の英語で挑戦し、相手に伝わった」という経験が生徒の大きな達成感と学習意欲につながることが明らかとなった。 4) 総合的な探究の時間の取組の推進 ・SDGs 視点を取り入れた本校のグローバル人材の育成のための学校目標である「自分の考えを自分の言葉で表現し、認め合う人材を育成するプログラム」の研究開発を目指した。 (3) 検証方法と検証結果		

魅力特色アンケート「高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。」と授業評価アンケート「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」への「肯定的回答 80%以上」を目標とする。

1) 年 2 回、アンケートを実施して、国際交流事業等を通じて、異文化理解が深まった生徒の割合、グローバルな社会問題への関心が高まった生徒の割合の目標をそれぞれ 80%以上とする。

2) 英語検定・生徒学力調査等を分析・検証して、取得率の向上・授業改善等に活用することを目指した。英検 2 級 60%以上、英検準 2 級 90%以上に加え、英検準 1 級取得者数前年比増の達成を継続目標とした。

3) 年 2 回、職員対象アンケートを実施して、本校の教育目標である「自分の考えを自分の言葉で説明し、話し合い、認め合うことのできる人材育成」や「習得した知識を会話や文章で発信できるようになる」授業実践について、「肯定的回答 80%以上」を目標とする。

(4) 取組指標の結果

授業評価アンケート

単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。			
回答	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
4. かなり当てはまる	3 6 %	3 3 %	3 6 %
3. ほぼ当てはまる	4 7 %	5 1 %	4 6 %
2. あまり当てはまらない	1 4 %	1 3 %	1 5 %
1. ほとんど当てはまらない	3 %	3 %	3 %

他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。

回答	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
4. かなり当てはまる	3 3 %	3 1 %	3 5 %
3. ほぼ当てはまる	5 0 %	5 3 %	4 8 %
2. あまり当てはまらない	1 4 %	1 4 %	1 5 %
1. ほとんど当てはまらない	3 %	2 %	2 %

魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート

高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。

回答	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
4. そう思う	4 6 %	4 4 %	4 3 %
3. どちらかといえばそう思う	4 4 %	4 5 %	4 8 %
2. どちらかといえば満足していない	1 0 %	1 0 %	7 %
1. ほとんど当てはまらない	0 %	1 %	2 %

職員アンケート

○「自分の考えを自分の言葉で説明し、話し合い、認め合うことのできる人材育成」につながる授業実践をできたと思いますか。

- ・ 肯定的回答は 6 月は 93.3%、12 月は 88.8%であった。
- ・ 目標とする「肯定的回答 80%以上」を大きく上回った。

○「習得した知識を会話や文章で発信できるようになる」授業実践をできたと思いますか。

- ・ 肯定的回答は 6 月は 93.3%、12 月は 93.4%あった。
- ・ 目標とする「肯定的回答 80%以上」を大きく上回った。

まとめ	(1) 成果 ・海外交流事業については、オンライン事業の実施、参加者の微増などにより成果を上げた。 ・探究学習については、発表会により、相互評価や振り返りを行うことによって全体に還元し、互いの学びを深めることができた。 ・生徒対象アンケートを実施し、異文化理解が深まったかについては第1回が77.9%だが第2回が平均82.9%」となり目標としていた80%を超えた。どの学年も、2回目の数値が高かったことは学習の成果と考える。国際的な社会問題に関心を持つようになったかについては第1回が63.0%で第2回が73.0%となり目標としていた80%に届かなかった。 ・英検の各級の取得状況は、準2級以上は77.0%、2級以上52.0%となり、それぞれの目標である80%と60%には届かなかった。昨年度より5ポイント、3ポイント減となったが、準1級は8名となり、昨年度より2名増加した。 (2) 課題（今後の方向性を含む） 次年度は、本年度の成果を踏まえ、国際交流活動の「持続可能性」と「参加の裾野の拡大」を重点課題として取り組んでいく。具体的には、国際的な行事、国内交流やオンライン交流を効果的に組み合わせることで、より多くの生徒が国際的な学びに主体的に取り組む機会を創出していきたい。 また、AI や ICT を活用した事前・事後学習を充実させ、交流体験が単発の行事で終わるのではなく、日常の授業と有機的につながる学習へと発展させることを目指す。すべての教科の連携を通じて、生徒が学んだ知識や技能を実際のコミュニケーションの場で活用し、自ら考え、発信する力を育成していく。 今後も、生徒一人ひとりが「自分の力で挑戦する」「自分のことばで伝える」経験を積み重ねられる国際交流の在り方を探究し、変化する社会に対応できる資質・能力の育成を目指した実践を継続していく。
その他 特記事項	